



## 血清アルブミンを知ろう

血清アルブミン(以下ALB)は、栄養状態を評価する際の指標とされています。当院のNSTでは、ALB値3.0g/dL以下を栄養不良とみなし、栄養状態改善のためのアプローチを行っています。しかし、ALBは栄養状態だけでなく、他の病態、病状によっても変動しますので、変動要因を考慮しながら検査値をみる必要があり、さらに臨床情報とともに解釈していくことが重要となります。

### ◆ まず、ALBは 低値？高値？

#### ●高値なら、脱水を疑って対応。

脱水により血管内の水分が減少し、濃縮されるためです。

<参照項目>: Hb・Ht・BUN・Na・Cl etc.

#### ●低値なら、他の検査項目と併せて原因を予測。

##### ①摂取不足

- ・食事が摂れない <参照項目>: Hb・MCV・血清鉄 etc.
- ・消化吸收障害 <参照項目>: 貧血・体重減少・下痢 etc.

##### ②産生不良

- ・肝機能が低下すると、肝臓のALBを作る能力が低下

<参照項目>: ChE・MCV・総cho・血小板・Bil・ALT etc.

##### ③消費量増加

- ・炎症性疾患・悪性腫瘍・手術等、体のどこかに炎症が起こると、炎症の鎮静化が優先され、タンパク質の多くをそちらで消費、血液中のALB値が低下

<参照項目>: CRP・白血球数 etc.

- ・内分泌疾患(甲状腺機能亢進症)で代謝が亢進するとALBは分解され低下

<参照項目>: TSH・FT3・FT4

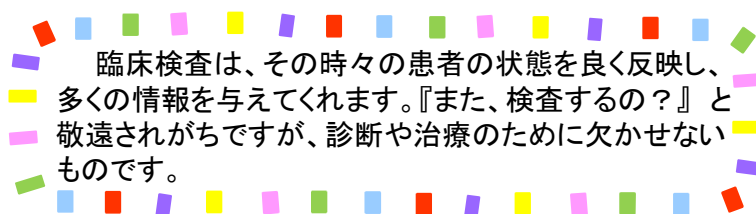
##### ④体外喪失

- ・腎臓から尿中への喪失 <参照項目>: 尿タンパク・総cho
- ・熱傷で皮膚からの喪失 <参照項目>: Na
- ・手術や外傷による出血 <参照項目>: Hb

##### ⑤体腔内漏出

- ・浸透圧を維持(血管内の水分量を調節)する働きができなくなる

<参照項目>: 胸水・腹水貯留



臨床検査は、その時々のお患者の状態を良く反映し、多くの情報を与えてくれます。『また、検査するの?』と敬遠されがちですが、診断や治療のために欠かせないものです。

NSTへのお問い合わせは栄養管理部またはリンクナースへ  
(栄養管理部PHS: 913・970)